2025 年 4 月発行

KIN-BALL® sport NEWSLETTER

ご　挨　拶

一般社団法人日本キンボールスポーツ連盟　会長　髙見 彰

昨年1月に発生した「能登半島地震」に続き、日本各地で起きた自然災害で多くの方々が不自由な生活を強いられました。被災されました方々にお見舞い申し上げると同時に、早期の復旧、復興に向けて力強い歩みを進めていただければと存じます。日本キンボールスポーツ連盟も、復興への道を照らす灯となりますよう努めてまいります。

ようやく全国各地で交流大会や体験会が開催され、キンボールスポーツによる交流も本格的に楽しめるようになってきたことは嬉しい限りです。国外に目を向ければ昨年、5年ぶりに韓国でワールドカップ2024が開催されました。13の国と地域から選手が集まり、日本代表男子チームが強豪カナダチームを打ち倒し、世界の頂点に立ち、女子チームも決勝でカナダチームに接戦の末、惜しくも準優勝となりました。同時開催のインターナショナルオープンでも日本チームが1、2、3位を独占するなど、日本のキンボールスポーツのレベルの高さを世界に知らしめることができた大会となりました。今後の普及、強化につながる成果といえます。代表選手、コーチ、サポートスタッフの皆さんはもとより、スポンサー企業、クラウドファンディングなどによる多くの支援、声援をいただいた皆さまにも心より感謝とお礼を申し上げます。

さて、当連盟はキンボールスポーツを通じて社会課題の解決に貢献することを目指しています。私たちは次の取り組みを通じて、より良い社会の実現に向けて努力してまいります。

1. **健康促進:** キンボールスポーツは、全ての年齢層が楽しめるスポーツです。定期的な運動を通じて、心身や社会的な健康を促進し、ウェルビーイングに寄与します。
2. **コミュニティーの強化:** キンボールスポーツは、チームスポーツで協力とコミュニケーションを重視します。これにより地域社会の絆を深め、居場所づくりとなる場を提供し、孤立感の軽減に貢献します。
3. **人間性の育成:** キンボールスポーツは、フェアプレーの精神やリーダーシップ、チームワークの重要性を体現する場でもあります。これらの価値観を次世代に伝えることで、健全な社会の形成を支援します。
4. **多様性と包摂:** キンボールスポーツは、性別、年齢、障がいの有無、言語の違いに関わらず、誰もが参加できるスポーツです。多様性を尊重し、包摂的な社会の実現を目指します。

私たちは、スポーツの力で社会課題を解決すべく役職員一丸となって、連盟に寄せられる内外の期待に応えていく決意です。改めて皆さまの一層のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

キンボールスポーツ ワールドカップ&インターナショナルオープン2024

韓国で開催されたワールドカップ並びにインターナショナルオープンで日本チームは上記の会長挨拶にありますように輝かしい結果を残しました。ワールドカップの代表選手は約9ヶ月間、概ね月1回の合宿･強化練習を行い本番に臨みました。選手とコーチ陣が一丸となって掴んだ栄光です。

ワールドカップ男子MVPは砂田隼汰さん、インターナショナルオープンプロ部門のMVPは工藤康祐さんが選ばれました。砂田さんは小柄ながら力強いヒットが魅力。また、ヒットの種類が豊富で腕の振りが世界一と言ってもいいくらい素早く、プレー中はひときわ目立つ存在でした。兄の航汰さんも日本代表で、今回兄弟揃ってワールドカップデビューです。2人とも大阪府摂津市のC'mon摂津でジュニアの頃からキンボールスポーツに親しんできました。隼汰さんはジュニア時代ジャパンオープン3連覇。その頃の写真がパンフレットやクラウドファンディングの表紙に使用されています。最近の日本代表選手は砂田さん兄弟のようにジュニア時代からの経験者が増えてきました。ひとえにクラブ運営に携わってくださるコーチや保護者の方々の尽力があってこそだと感謝申し上げます。

右から2番目の少年が隼汰さん。

8年後、MVPを受賞!

ワールドカップには4名、インターナショナルには2名の日本人レフリーが選出され、ワールドカップの決勝戦で日本人として初めて玉野裕弥さんがレフリーを務めました。女子決勝戦での堂々としたレフリングは、日本人選手の技術の高さ同様レフリーのレベルの高さの証明になりました。

最後に、スポンサーや有志の方々、クラウドファンディングなどを通して協賛金や寄付金を頂き、選手とコーチ計27名に60,000円ずつ援助することができました。ご支援ありがとうございました。